

2024年度 聖路加国際大学の取り組みに対する意見聴取結果

学生に在学中に身につけさせる学力や資質・能力及び養成しようとする人物像に照らして、教育の成果や効果が上がっているかについて検証するために、本学卒業生の就職先である医療施設（1施設）に対して意見聴取を行った。

日時：2024年11月25日（月）10：00～11：15

質問者：学生支援部長 キャリア支援分科会長

次第：①本学学生の内定辞退について ②本学卒業生の就業状況について

③学生時代に身につけてほしい能力について ④ディプロマサブリメントについて

1. 本学学生の内定辞退について

聖路加国際大学の学生に内定を出したが、例年、辞退者が少なくない。多様性の時代であり、辞退することには問題ない。だが、返送が求められている書類を期限内に返送しない学生が多く、確認の電話に出ない、コールバックを求めても折り返しの電話をしないなど、辞退の仕方に課題がある学生が多い。社会人としての基本的な準備を整えてほしい。

2. 本学卒業生の就業状況について

聖路加国際大学の卒業生は失敗を恐れる傾向が高い印象がある。

聖路加国際大学の卒業生のみならず、臨床では、大学で学んだことをすぐに活かすことができないような出来事が生じるが、うまくいかないことがあると、それを環境や相手、周囲のサポート不足のせいにし、「誰かの力を借りないとできない」という自分の状態を正しく省察することができないと感じる。また、先輩や上司からの評価を気にして「わからない」と言えない。また「同期はこう教えてもらっていたのに」などと人と比べる傾向がある。

本院では、しっかり自身で考えて看護を実践する職員を求めている。

3. 学生時代に身につけてほしい能力について

学生時代には、看護の意義をしっかりとわかってほしい。病院における看護の対象は患者であり、患者は日常生活になんらかの支障を来していることが多く、患者が病のためにできない部分を援助するのが「療養上の世話」であり、看護である。配膳や排せつケアなどの患者の日常生活の援助を、取るに足りないものであると考えているような看護師が増えている。カンファレンスの時間を30分行っても「カンファレンスの時間が足りない」と主張し、日常生活の援助を軽んじる傾向がある。自分でできたはずのことができず、他者による支援が必要になるとい患者の身体の状態と気持ちを理解できる力を身に付けて臨床にきてほしい。

4. ディプロマサブリメントについて

本学よりディプロマサブリメントについて説明し、採用試験受験者についての資料としての活用可能性について意見を伺ったが、当該医療施設の採用に際しては必要ないとのことであった。